就労移行支援事業計画

１．昨年までの状況について

大森授産所は、開設当初から「施設は社会参加に向けての通過地点である」という理念のもと、開設から現在までの間に **116 名の利用者が一般就労を実現した**（過去 9 年間で 36 名）。

平成 21 年度に、旧法の授産施設から障害者自立支援法に規定された新事業体系に移行し、就労移行支援事業を開始した。右表のとおり、令和 5 年度は一般就労を 4 名させることができましたが、目標を達成することができなかった。

表. 施設からの就職者数

年度	就職人数
令和 5 年度	4 名
令和 4 年度	2 名
令和 3 年度	4 名
令和 2 年度	3 名
令和元年度	5 名
平成 30 年度	5 名
平成 29 年度	5 名
平成 28 年度	3 名
平成 27 年度	5 名

２．目標

・一般就労者：5 名以上
・職場定着率：100%

３．計画内容

原則 2 年という有期限の期間内に一般就労を実現できるように、本年度の具体的な取り組みを以下のようにしていく。

（１）チェックリストの有効活用

本年度も必要に応じ「就労支援のための訓練生用チェックリスト」を活用する。

（注　作成：独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
ダウンロード先 URL：http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/30.html）

表. 訓練生用チェックリスト項目

領域	項目
日常生活	生活のリズム・健康状態・身だしなみ・金銭管理・交通機関の利用・規則の遵守・危険への対処・出席状況
対人関係	挨拶・返事・会話・意思表示・電話等の利用・情緒の安定性・協調性
作業力	体力・指示内容の遵守・機器、道具の使用・正確性・器用さ・作業速度・作業への対応
作業への態度	就労意欲・質問・報告・連絡・時間の遵守・積極性・集中力・責任感・整理整頓

各項目の能力を向上させるために、本人の特性に合わせた基礎訓練や職場実習を進める。

（２）ワークサンプルの活用

①プラグ・タップ組み付け、②重さ計測、③OA 作業、④ラベル作成などのワークサンプルをピッキングと併せて利用者支援に有効に活用する。

また、これらのワークサンプルについては、特別支援学校等の実習生に対する評価・判定としての活用も視野に入れる。

（３）実践的作業

フルマーク、丸菱等の各事業所の協力の下、ギフトタオルなどの商品梱包に取り組む。
作業工程として、①下準備、②組み立てる、③数える、④梱包または結束、という一連の作業を一人またはラインで取り組み、その中で、報告や連絡、作業スピード、持続、体力（立ち仕事）に重点を置く。
就労準備講座として適時、就労に向けてのルール、マナー講座を行ない、就労に対しての意識づけを行なっていく。

（４）実習先の開拓

一般事業所の雰囲気のなかで実習をすることは、利用者の就労意識を向上させる上で非常に効果的である。本年度も、雇用を前提としていない実習についても積極的に行い、利用者の意識向上を図る。そのため、名古屋市障害者支援課（名古屋市プロモート事業）、ハローワーク、協力企業等を通じて実習先の確保に努める。

（５）職場開拓の拡大

マッチングサポートフェア、名古屋市プロモート事業、ウェルジョブなごや等の関係機関との連携を深めながら、実習を通じて採否を検討していただける事業所をより多く開拓できるようにする。

（６）職場定着の充実化

名古屋市就労定着支援助成金を有効活用する。また、愛知障害者職業センターのジョブコーチ支援を必要に応じて活用していく。

（７）職員間の連携・情報共有の充実化

原則第３水曜日に職員打合せを行なう。現在の課題ある利用者の支援方針、就労状況、就労予定者等の情報共有を行なう。また、職員間での情報交換は常に行なっていくことを目指す。

（８）愛される人間像の形成

明るく過ごす　楽しく過ごす　仲良く過ごす　元気よくする　笑顔を育てる　しっかり挨拶をする　清潔にする　言葉がけをしっかりする（報告・連絡・相談）　約束を守る　責任感を持つ　夢を持つ　感謝　ありがとうときちんと言う　すみませんときちんと言う　相手を思いやる優しい気持ち・心を学ぶ　何事も一生懸命する
以上のことを理解してもらい、誰からも愛される人になるよう支援を進める。